

会 議 録

会議の名称		令和6年度第2回竹園学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和6年10月17日（木）開会10:00 閉会11:30		
開催場所		つくば市立竹園東小学校 プレイルーム		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	古久保 みどり 今井 健之 太田 敬 松本 祐輔 倉田 廣之 中嶋 信美 鈴木 敏一 浜田 博文 北島 良巳 窪庭 隆 岩村 一代 辻 武晴 谷池 真彦 竹園東中学校 校長：茂在 哲司、教頭：大和田 哲也 教務主任：鈴木 優庸 竹園東小学校 校長：皆川 正美、教頭：岡宮 敏 教頭：赤羽 岳彦 教務主任：小松 有実 竹園西小学校 校長：田中 真樹子 副校長：大山 英樹 教頭：永井 明子 教務主任：吉村 哲一		
	その他			
	事務局	生涯学習推進課参事：山口 健次 生涯学習推進課課長補佐：瓜阪 恵理名 生涯学習推進課係長：飯島 遊 社会教育主事：村上 和宏 地域連携教育指導員：酒井 和宏		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由				
議題		「これからの地域活動における資源の活用について」 ～地域学校協働活動推進員を中心とした連携・協働を通して～		
会議録署名人		確定年月日	令和 年 月 日	
会議次第	1 開会			
	2 会長・学園長挨拶			
	3 前回の議事の確認			
第	4 協議：熟議			
	(1) 竹園東小学校 若竹委員会からの発表 (2) 第1回つくば市地域学校協働活動推進員研修会の報告			

	(3) 熟議 テーマ「これからの地域活動における資源の活用について」 ～地域学校協働活動推進員を中心として連携・協働を通して～ (4) その他 コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について 5 閉会
	<審議内容> 1 開会 鈴木会長：ただ今から、令和6年度 第2回 竹園学園コミュニティ・スクール協議会を開会します。はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。竹園東小学校小松有実先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。→承認 2 挨拶 鈴木会長：竹園学園のための協議をよろしくお願いいたします。 茂在学園長：いろいろな意見をいただければ幸いです。 3 前回の議事の確認 鈴木会長：第1回の会議内容について、要点を踏まえて振り返りをしたいと思います。別紙1（前回の会議録）を見てください。前回の要点をまとめますと①委員の自己紹介から会長、副会長選出②学校グランドデザイン説明と教育活動紹介③熟議「地域とともにある学校とは」～学校のハードル（バリア）を下げる方法～などについて話し合いを深めました。なお、詳しい内容に関しては、市の教育委員会ホームページに掲載されますので御確認ください。 4 協議 (1) 鈴木会長：協議の前に竹園東小学校の教育活動を紹介します。竹園東小学校、若竹委員の皆さんよろしくお願いいたします。 ○竹園東小学校児童の発表（10:10～10:25）※ルールメイキングについて (2) 鈴木会長：次に、去る8月10日に行われた第1回つくば市地域学校協働活動推進員研修会の報告があります。地域学校協働活動推進員の皆様よろしくお願いいたします。 鈴木会長：地域学校協働活動推進員の報告（10:25～10:40）竹園東小学校 中嶋信美様よろしくお願いいたします。 中嶋委員：学園ごとに集まって、教頭先生から学校の課題を発表し、委員を交えて課題の解決方法を検討しました。 鈴木会長：ありがとうございました。今回の報告を受け、熟議に入りたいと思

います。

(3) 熟議

「これからの地域活動における資源の活用について」

～地域学校協働活動推進員を中心とした連携・協働を通して～

鈴木会長：これより熟議に入ります。熟議を進行するにあたり、ファシリテーターを竹園東小学校岡宮先生にお願いしたいと思います。皆さん、よろしいでしょうか。では、岡宮教頭先生よろしく願いいたします。

岡宮教頭：熟議テーマについて説明、熟議の進行の説明

- ・各グループでの話合いの時間は、11:15 までです。
- ・グループ協議後、グループごとに内容を発表してください。

まとめ

Aグループ：竹園高校では、生成A I を活用した授業に取り組んでいます。探究・教育改革推進部を中心に研究を行っています。授業の参観や交流など、学校間の連携が必要である。地域との交流では、地域のネットワークを広げて情報を共有する。110 番の家では、見直しが必要である。地区と学校が互いに働きかける必要がある。

Bグループ：2つの視点で話し合いました。教育活動では、各学年でどのような人材が必要かを把握し、地域に広げる。広げすぎはよくない。実施計画を地域の方にも見てもらい、地域の方から意見をもらうと色々な気付きがあると思います。また、子ども達の発表をもっと見てもう機会を増やす。通学路では、PTAと連携し、地域人材のリストも活用する。推進員が集めた情報をどう発信していくかが課題である。

Cグループ：見守ることでは、学校でできることは、学区の危険個所の発信を行う。HPでも知らせ、学園だよりの回覧を行う。登校だけでなく下校時も見守りを行う。見守るときは、目印のジャケットやステッカーが必要である。体験型では、農業体験が難しい。学区の特色を生かし、無理にやらなくてもいいのでは。それぞれの学校の特色を生かすことが大切。110 番の家では、大人だけではなく、子どももしっかりと把握させることも重要である。部活動では、高校の取り組みも参考にする。竹園地区は、他の地区とは違って恵まれている。

岡宮教頭：グループごとの発表、ありがとうございます。

鈴木会長：岡宮教頭先生、ありがとうございました。

5 その他

鈴木会長：最後に御出席のみなさんから何かありますでしょうか？

次回の開催予定日等について、岡宮先生、よろしくお願いします。

岡宮教頭：本年度3回目のコミュニティ・スクール協議会について御連絡します。次回ですが、第3回は竹園西小学校で令和7年2月19日（水）9時30分からの予定です。詳細は、追って御連絡いたします。

鈴木会長：本日の「協議」の内容は、以上になります。また、本日の会議の様子

を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思
います。委員の皆様、よろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

6 閉会

以上をもちまして、令和6年度 第2回竹園学園コミュニティ・スクール協議
会を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。
今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度第2回竹園学園コミュニティ・スクール協議会

日時：令和6年10月17日（木）

10：00～

場所：竹園東小学校 スマイルルーム

次 第

1 開 会

2 会長・学園長挨拶

3 前回の議事の確認

4 協 議

(1) 竹園東小学校 若竹委員会からの発表

(2) 第1回地域学校協働活動推進研修会の報告

(3) 熟議 テーマ

「これからの地域活動における資源の活用について」

～地域学校協働活動推進委員会を中心とした連携・協働を通して～

(4) その他

コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について

5 閉 会

会 議 録

会議の名称		令和6年度第1回竹園学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和6年6月3日（月）開会 10:00 閉会 11:30		
開催場所		つくば市立竹園東中学校 図書室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	古久保みどり 今井健之 太田 敬 松本祐輔 倉田廣之 中嶋信美 後藤秀一 鈴木敏一 長谷川聖修 浜田博文 北島良巳 窪庭 隆 岩村一代 鷺田美加 田中康海 竹園東中学校 校長：茂在哲司、教頭：大和田哲也 教務主任：鈴木優庸 副教務：小神野真人 竹園東小学校 校長：皆川正美、教頭：岡宮敏、赤羽岳彦 教務主任：小松有実 竹園西小学校 校長：田中真樹子 副校長：大山英樹 教頭：永井明子 教務主任：吉村哲一		
	その他			
	事務局	教育局次長：久保田靖彦 生涯学習推進課課長補佐：瓜阪恵理名 生涯学習推進課参事：山口健次 生涯学習推進課係長：飯島遊 社会教育主事：村上和宏 地域連携教育指導員：酒井和宏		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	1人
非公開の場合はその理由				
議題		1 学校運営の基本方針について 2 各学校の教育活動の紹介 3 熟議「地域とともにある学校とは		

		～学校のハードル（バリア）を下げる方法～	
		4 その他	
会議録署名人	鈴木 優庸	確定年月日	令和6年 6月 4日
会議次第	1 開会 2 任命書交付、委嘱状交付 3 挨拶 4 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクール導入について 5 会長・副会長の選出 6 協議 (1) 学校運営の基本方針について (2) 学校の教育活動の紹介 (3) 熟議「地域とともにある学校とは ～学校のハードル（バリア）を下げる方法～」 (4) その他 7 閉会		

＜審議内容＞	
1 開会	事務局：ただ今から、令和6年度 第1回 竹園学園コミュニティ・スクール協議会を開会いたします。 はじめに、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則第6条第2項では、「会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」としております。本日の出席委員数は25名であることから、会議が成立していることをお知らせいたします。 会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として竹園東中学校鈴木先生をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。 参加委員：承認します。 事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。
2 任命書交付、	事務局：始めに「任命書」の交付をいたします。任命書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。 （「任命書」を今井委員に交付） 続きまして、地域学校協働活動推進員のご紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。 竹園学園で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として倉田廣之委員、中嶋信美委員、後藤秀一委員を竹園学園からご推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきたいと思います。

(「委嘱状」を倉田委員、中嶋委員、後藤委員に交付)

ありがとうございました。お席にお戻りください。

なお、この会議において皆様は、非常勤特別職として任命され任期は1年となります。また、守秘義務等の責務がございます。ご留意ください。

皆様の任命書については、机の上にごございますのでご確認ください。委員の皆様の自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただきます。ご了承ください。

3 挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、教育局次長久保田が代読いたします。

事務局(久保田次長)：森田教育長の挨拶を代読させていただきます。

皆さんこんにちは。教育長の森田でございます。

本日はお忙しい中、第1回竹園学園コミュニティ・スクール協議会に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当協議会の委員を快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。

本年度、竹園学園においては、法に基づいた協議会を設置し、「コミュニティ・スクール」が本格始動します。昨年度1年間の推進会議を通じて、目指す児童・生徒の姿や、学校と地域が子どもたちのためにどのような協力ができるかを、時間をかけて話し合っていたいただいたことと思いますが、その話し合いを基に、より具体的な議論を深めていただければと思います。

コミュニティ・スクール協議会の設置は、ゴールではなく、スタートラインであり、また、すぐ目に見える成果が出るとも限りません。しかし、委員の皆様の力を合わせ、未来を担う子どもたちのために何ができるのかを考えていくことで、必ず、それぞれの学校の実情にふさわしい地域との連携の在り方が生まれてくるものと感じております。

参考として、つくば市のモデル地域として、令和4年度から先行的に「コミュニティ・スクール」を導入した吾妻学園の取組を紹介させていただきます。吾妻学園では、昨年度、地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、「ようこそ先輩」と題する卒業生や地域住民による授業を、キャリア教育の一環として実施しました。既存の枠組みを活用した地域学校協働活動の事例として、参考にしていただければと思います。

複雑化・多様化する社会の中で、子どもたちがこれからの時代を生き抜く力を育成するためには、つくば市教育大綱の理念にもあるように、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体でこどもの育ちの場を支えることが必要不可欠となります。委員の皆様におかれましては、つくば市の教育の充実に向け、今後ともどうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

狭い地域ではあるが、幼稚園、児童館、小学校、中学校、高校までがある地域は少ないので、期待をしています。一年間よろしくお願いします。

4 説明事項

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて」ご説明させていただきます。

事務局(村上社会教育主事)：生涯学習推進課社会教育主事村上と申します。よろしく願いいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
 - 2 コミュニティ・スクールとは
 - 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは
- についてご説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについてご説明いたします

配布されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送る、ことを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めて行きたいと考えています。つくば市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走というスローガン」のもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものかをご説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと地域とともに子どもを育む学校と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。もっと踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話し合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

竹園学園は今年度、協議会と言って、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう？

現在、学校では、「いじめ、不登校」、「教員の業務量増加」、地域では、「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を

共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについてご説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことからコミュニティ・スクール協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、コミュニティ・スクール協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まるコミュニティ・スクール協議会では、皆さんの様々な視点からご意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べるができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員求めることなどです。

④の機能として学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。先ほども申し上げました通り、〇〇学園は今年度協議会と言う法に基づいた本格設置となります。

委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていきますので、御協力をお願いいたします。

委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていきますので、ご協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」についてご説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか。何を実現したいのか。という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋にしるし、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映してほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪およびハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働し

て行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときには、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずです。

地域学校協働活動の例を一つご紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々のかかわりが、児童生徒の幅広い視野を持つことにつながります。また、地域の方々とかかわることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。新しいことをやらなくてもよい 運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきか、地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

- ①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること
- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
- ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること
- ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
- ⑤地域と学校が連携した様々な活動 地域学校協働活動が始まることです。

つくばの未来の創り手となる 子どもたちのためにご協力をよろしく願います。以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。

5 会長・副会長の選出

事務局：協議の前に、会長と副会長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則の第6条第2項に「会長及び副会長は、委員の互選により定める。」とあります。

昨年度、座長・副座長として活動していただいた鈴木敏一委員と松本祐輔委員は引き続き協議会委員になっていただいているので会長を中嶋委員に、副会長を稲川委員にお願いしたいと提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

参加委員：承認

6 協議

(1) 学校運営の基本方針について

鈴木会長：それでは、各学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説

明及びグランドデザインを受けての特色ある教育活動について、各学校よりご説明をお願いします。

○竹園学園長(茂在校長)：学園グランドデザイン（学園要覧）の説明

- ・竹園学園だよりの発行について
昨年度のコミュニティ・スクールで出た意見より、発行をすることにした
- ・学園要覧について
教育目標を「竹園から世界へ羽ばたく児童生徒の育成」としている。
変化が激しい時代で知識を新たな価値にしていけることが求められている。
JAETの研究指定も受けている。さらに、幼・小・中・高が協力をしていくことが求められる。

○竹園東小学校(皆川校長)：竹園東小学校グランドデザインの説明

- ・まなびプロジェクト：JAETの研究を中心に進めている
- ・こころプロジェクト：合理的な配慮
- ・あんしんプロジェクト：安心して健やかな学校生活
- ・わかたけプロジェクト：学活、特活に力を入れる

○竹園西小学校(田中校長)：竹園西小学校グランドデザインの説明

教育目標「笑顔がいっぱい楽しい学校～課題にチャレンジ・よいとこ発見・つながる喜び～」の中で、多様性を認めていくことが大切

○竹園東中学校(茂在校長)：竹園東中学校グランドデザインの説明

- 教育目標「国際社会に貢献できる人間力を育む教育の創造」
- ・主体的に取り組むことができる生徒
 - ・目標の実現のためには、地域、保護者との連携が必要になる

鈴木会長：先生方ご説明ありがとうございました。先ほど教育局から説明がありましたように、コミュニティ・スクール協議会の機能の一つに、「校長が作成する学校運営の基本方針の承認」があります。委員の皆様にグランドデザインへの承認をお願いしたいと思います。令和6年度竹園学園・各校のグランドデザインを御承認いただける方は拍手をお願いいたします。

参加委員：(拍手)

鈴木会長：ありがとうございました。校長先生方におかれましては、本内容にて学校運営をお願いいたします。

(2) 熟議

鈴木会長：続いて、熟議に移りたいと思います。ファシリテーターを竹園東中学校の大和田先生にお願いして、よろしいでしょうか。

大和田教頭：(承認)

鈴木会長：お引き受けくださりありがとうございます。では、先生よろしくお願ひいたします。

大和田教頭： 熟議のテーマ

「地域とともにある学校とは

～学校のハードル（バリア）を下げる方法～」

①地域とともにある学校とは

②ハードル（バリア）を感じることは

・各グループでの熟議 10 分間

鈴木会長：熱心なご協議ありがとうございました。それでは、各グループで協議されたことの発表をお願いいたします。

A グループ

- ・登下校時に挨拶をしていいものなのか
- ・学校が何を求めているのかが分からない、また地域が何をできるのかも伝えられない。もっとコミュニケーションをとりたい。
- ・地域の人材をもっと活用してほしい

B グループ

- ・地域、保護者が学校の方針を理解する
- ・卒業すると、学校とのつながりが希薄になる
- ・ふらっと立ち寄れる学校（防犯が心配）
- ・学校の活動を発信していく

C グループ

- ・地域の人が気軽に学校に来ることができる
- ・子供の成長を助ける
- ・学校から地域に要望を出す
- ・地域に依頼する際に、窓口となるところが分からない

D グループ

- ・地域人材の活用
- ・地域に支えられる学校
- ・卒業後のかかわりが希薄
- ・学校からの情報発信が少ない
- ・地域の人が自由に学校に行くことができるシステムの構築

E グループ

- ・学校が身近な存在であること
- ・コミュニケーションが希薄になっている
- ・防犯、働き方改革などもあるが、交流が少ない
- ・各学校の取組が点になっているので、交流をして線にしていく

鈴木会長：ただ今の発表について、ご質問やご意見があればお願いします。

（ 後藤委員より ）

・ラーケーションの活用について

全県での実施は、茨城県のみ。地域との協力も進めていきたい。

(中嶋委員より)

・学校や地域の方と連絡をとる際の窓口をどこにしたらよいのか。

(古久保委員より)

・学校と地域を繋ぐことがこの会がある意義なので、私を窓口として繋いでいくことができるようにしていきたい。

(長谷川委員より)

・校内フリースクールについて

ハートフルSルームという名称でやっている。2名体制で運営。

村上社会教育主事：倉田、中嶋、後藤委員が中心となって働きかける。

その中でも、いろいろな方が積極的に関わっていくことが大切である。

倉田委員：誰かが単独で動くのではなく、横のつながりが大切。

そのつながりの中心が学校であるとありがたいです。

長谷川委員：気軽に話しかけてくれれば、そこから繋がりをつくれます

中嶋委員：つながりをつくりたいが、連絡先が分からない

村上社会教育主事：行政としては難しい。学園で対応になる。

鈴木会長：発表者の皆さん、ファシリテーターの大和田先生ありがとうございました。最後に委員のみなさんから何かありますでしょうか。

それでは、進行を事務局へお返しいたします。皆様、スムーズな運営にご協力いただきありがとうございました。

事務局：鈴木委員、協議進行、ありがとうございました。本日の会議の内容は以上となります。

また、お手元に「つくば市コミュニティ・スクール評価ガイドライン」を配布させていただいております。こちらは、市教育委員よりコミュニティ・スクールの運営にあたり念頭においていただきたいと示されたものです。提出を求めるものではございません。折々において御活用いただければと思います。また、なお、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思います。委員の皆様、よろしいでしょうか。

以上をもちまして、令和6年度第1回竹園学園コミュニティ・スクール協議会を閉会いたします。次回のコミュニティ・スクール推進会議は令和6年10月17日(木)10時から、会場は竹園東小学校を予定しています。第3回は、令和7年2月19日(水)の10時から会場は竹園西小学校になります。

7 閉会

本日の協議の内容は以上になります。なお、本日の会議の様子や写真について、つくば市ホームページへの掲載を予定しています。本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。